

J A たじまの主な事業の内容

信用事業

JAの信用事業とは

貯金をはじめ、ご融資や為替など、いわゆる銀行業務といわれているものがJAの信用事業です。JA（農業協同組合）、県信連（信用農業協同組合連合会）、農林中金（農林中央金庫）の3段階の組織が緊密に結びつきながら「JAバンク」として各種金融サービスを提供しています。

JAたじまでは、地域の組合員・利用者の皆さまにとって、身近で便利な「農業・生活メインバンク」としてお選びいただけるよう、真心を込めたサービスで農業とくらしに貢献してまいります。

多様な商品とサービス

年金受給者の皆様には、専用の定期積金・定期貯金をご用意するとともに、グラウンドゴルフ大会や歌謡ショーなどの「年金友の会イベント」を実施しています。また、但馬から離れて生活されるご家族が大切なお墓を維持・管理いただけるよう「お墓掃除代行サービス付き定期貯金」を取り扱っています。

貸出金では、新築から購入、借り換えまで組合員・利用者のニーズにあった多様な住宅ローン商品を取り扱うとともに、ローンプラザ（豊岡・和田山）を日曜日も営業し、その他マイカーローン、教育ローンなど、組合員・利用者の生活を支えるための相談・商品提案に取り組んでいます。

なお、利便性の向上のためにパソコンやスマートフォンを利用して口座残高や入出金明細などタイムリーに確認できる「JAバンクアプリ」や、振込や照会ができる「JA ネットバンク」を提供しています。

共済事業

JAの共済事業とは

相互扶助の精神に基づき、組合員の方をはじめとした特定の方の生命や住宅、自動車などの財産を守るために行っている事業がJAの共済事業＝JA共済です。

JA共済は、一般の生命保険と損害保険の両分野の機能を併せ持ち、組合員・利用者の皆さまのニーズに応える幅広い保障ラインナップを備えています。農業に関するリスクを包括的に保障する農業者賠償責任共済など、それら幅広い商品を、専門知識を持つ総合渉外担当者が中心となり、「ひと・いえ・くるま」の総合保障の普及につとめています。

平成29年2月1日の自動車損害調査体制の見直しにより、共済連とJAが一体的に運営する「JA 共済連但馬サービスオフィス」を設立するとともに、4つの事故相談センターを八鹿に集約しました。

災害時の対応

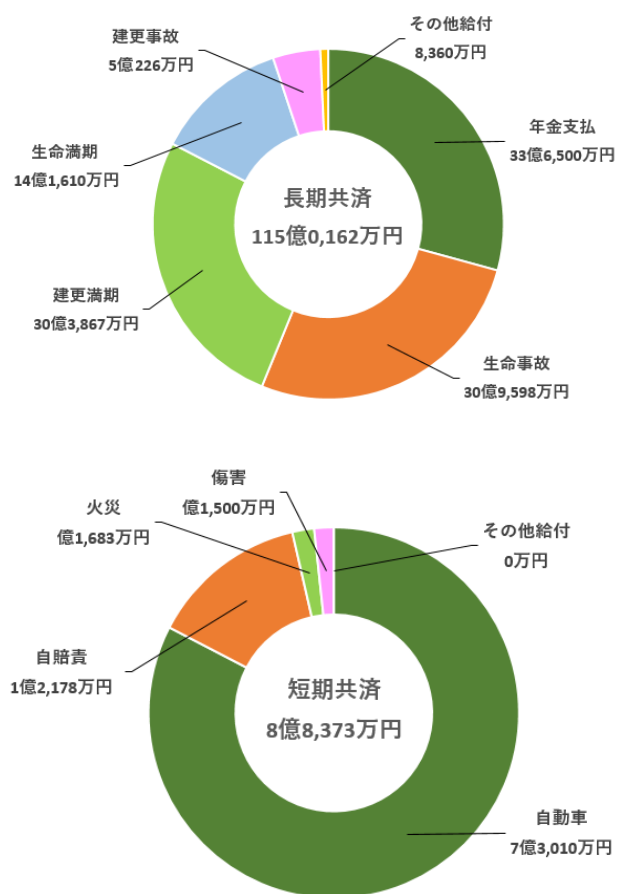
JA共済では、自然災害発生時には、系統組織と一体となった迅速な対応ができるよう体制を整えています。

また、近年の但馬地区における自然災害については、平成29年10月の台風21号、令和2年の大雪による雪害がありました。これらの際には、JAたじまの職員が直ちに共済契約者世帯の被害調査を実施し、迅速に共済金をお支払いすることができました。

JA共済では、これからも、広域災害・自然災害の備えとして十分な力を発揮し、組合員・共済契約者に安心を提供できるようつとめてまいります。

なお、令和4年度の共済金支払実績は次のとおりです。

■ 令和4年度共済金支払実績



J A 共済の安心・安全度

J A 共済の契約は、J A たじまと J A 全共連（全国共済農業協同組合連合会）が共同でお引き受けしています。J A たじまでは J A 共済の窓口として、また J A 全共連は商品開発や資産運用業務・支払共済金にかかる準備金の積み立てなどを行っています。

J A 共済の「ひと・いえ・くるま」の保障は国内トップクラスの契約量となっており、令和5年3月末の J A 共済全国実績は生命総合共済の保有契約件数：約 2,205 万件、建物更生共済の保有契約件数：約 925 万件、自動車共済の保有契約件数：約 821 万件となっています。また J A 全共連における、ソルベンシーマージン比率（支払余力）は、令和5年3月末現在において 1,095.4%となっています。

J A 全共連の令和5年3月末時点の総資産は 57 兆 6,870 億円となっています。また、大規模・広域災害を想定した異常危険準備金（災害などのリスクに備えて積立てる準備金）については、2 兆 197 億円を準備するとともに、海外への再保険の実施など、万が一の際の支払いには万全の準備を取っています。

営農畜産事業

J Aたじまでは、「J Aたじま 10 年ビジョン」に掲げた将来目標「地域と共に農業を活性化し、但馬の豊かな自然環境と食の安全・安心を守ります」を実現するため、「但馬の強みを伸ばす」農業を推進します。基幹品目を中心とした生産拡大やブランド力の向上、但馬牛の一層の生産振興と希少系統維持への取り組みなどを中期計画 Plan 2024 の方針とし、様々な活動に取り組んでいます。

自然環境と共生する農業をめざして

平成 17 年 9 月に豊岡市で放鳥されたコウノトリは、一度絶滅した野生動物を世界ではじめて復帰させた取り組みとして注目を集めました。

そして現在はコウノトリと共存していくため、各地で様々な取り組みが行われています。J Aたじまでは、コウノトリが生活していく環境を維持していくために、組合員が中心となって様々な環境創造型農業を行っています。特に「コウノトリ育むお米生産部会」では、休耕田のビオトープ化や冬季湛水を行うなど、環境に負荷の少ない農法「コウノトリ育む農法」に生産者が一丸になって取り組み、「コウノトリ育むお米」の生産を行っています。環境創造型農業で生産されたお米は、京阪神地区を中心に高付加価値米として販売されています。

このような「コウノトリ育むお米」の取り組みが評価され、平成 22 年 11 月には、国、民間団体が構成する「グリーン購入ネットワーク」が主催する「第 12 回グリーン購入大賞」で環境大臣賞を受賞しました。

また、生産者、行政、流通、J Aたじまなどが一体となって取り組んできた「コウノトリ育むお米」を通じた生産者と消費者の交流や、地元子どもたちへの食農教育の実施、生物多様性の保全に新たな価値を創造したことなどが高く評価され、J Aたじまは平成 24 年 1 月に「第 42 回日本農業賞 第 9 回食の架け橋賞 大賞」、平成 27

年 3 月には「但馬産業大賞（自然と共生する環境創造事業部門）」を受賞しました。

平成 29 年 11 月には、「コウノトリ育むお米」が、日本の優れた文化や産業などを国際的な視点で評価する「クールジャパンアワード 2017」を受賞しました。

令和 2 年度には、農林水産省主催の「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」の有機農業・環境保全型農業部門で農林水産大臣賞を受賞しました。

令和 4 年度には、豊岡市学校給食の全量無農薬栽培米使用に向けて、コウノトリ育むお米（無農薬栽培）を試験提供しました。また、薬剤を使用せず水稲種子消毒をお湯で行う「温湯（おんとう）消毒施設」（西日本最大級の処理能力）を設置し、環境創造型農業のさらなる推進を目指しています。



豊岡市学校給食にコウノトリ育むお米（無農薬栽培）を試験提供

コウノトリ育むお米の輸出に向けた取組

平成 27 年 5 月からイタリアのミラノで開催された「ミラノ国際博覧会（ミラノ万博）」において、日本館の共通食材としてコウノトリ育むお米が使用されました。平成 29 年 2 月には中東のドバイで開催された国際総合食品見本市「ガルフード 2017」にコウノトリ育むお米を出展するなど、将来の本格的な輸出を見据えた取り組みを進めてきました。

平成 29 年度には、香港の現地高級スーパーへの販売促進活動の結果、初めての定期輸出が開始されました。この他、シンガポールでの販売促進活動やアメリカ・ロサンゼルスで開催された「ジャパニーズフードフェスティバル 2018」に出展

するなど、積極的な海外でのPRに取り組んでいます。

令和4年度は、輸出国数 7 つの国と地域に19.6 t 輸出しました。

優良米の産地として

但馬の稲作では、コシヒカリを中心に、安全で高品質な米の生産につとめており、兵庫県内における優良産地として高く評価されています。

環境に配慮したコウノトリ育む農法で作る「コウノトリ育むお米」のほか、流通関係者と一体となって取り組む「ふるさと^{たじま}但馬米」、コープこうべとの間で契約栽培している「つちかおり米」は、生産者にとって、より「持続可能な稲作」を実現するための取り組みであり、消費者の皆様により美味しく、より安全に食べていただけるお米となっています。なお、「つちかおり米」は平成29年度で取り組み開始から30周年、「ふるさと^{たじま}但馬米」は令和元年度で10周年を迎えました。さらに、「蛇紋岩米」「みかた棚田米」など特色あるお米の生産・販売もすすめています。

また但馬は、古くから優良な酒米産地として評価されてきました。現在では、主に兵庫北錦・五百万石・フクノハナといった品種の契約栽培を行っています。フクノハナは平成29年度で取り組み開始から30周年を迎えました。

お米の消費が落ち込む厳しい販売環境の中、買っていただけるお米づくりのため、栽培講習会・研修会を開催して品質の高位平準化につとめるほか、但馬広域営農団地運営協議会等、関係機関と連携して試験圃・試作圃を設置し、地域の栽培環境に適した優良品種の導入を検討しています。

また、但馬のおいしいお米を有利に販売するため、販売活動の強化にも積極的に取り組んでいます。契約栽培により、安定した販売先を確保するとともに、生産から販売、流通までが連携した「商品づくり」を行うことで、消費者に安全・安心でおいしいお米をお届けしています。さらに一般米についても、栽培方法を均質化して、他産地よりも有利な販売をめざしています。

その他にも生産者の作付意欲の高揚と、食味の向上・増収に向けた取り組みとして「ふるさと^{たじま}但馬米食味コンテスト」や「多収穫米選手権」を実施しています。

地域の特性を活かした特産物づくり

管内の多くが中山間地域であり、小規模な圃場が分布するとともに、多様な栽培条件があるため、各地域の特色を活かした多彩な特産物づくりをすすめています。中でも、夏から秋にかけて収穫される夏秋ピーマンは近畿地方で一番の生産量を誇っており、JA^{たじま}の重点品目と位置づけ、さらなる生産の拡大に取り組んでいます。平成27年には、但馬産ピーマンのブランド化をすすめるため、「たじまピーマン」を地域団体商標に登録しました。令和5年3月には、ピーマンの選果施設を移設、能力増強し、関西最大級の処理能力を誇る「JA たじまピーマン選果施設」を稼働開始しました。目標年間出荷量1,000t 達成に向け、生産や流通のさらなる拡大を目指しています。

同じく但馬発祥の農産物である「朝倉さんしょ」について、さらなるブランド化をすすめるため、「朝倉さんしょ」の地域団体商標を令和2年4月に取得しました。これらピーマン、朝倉さんしょについては特産振興の重点品目として但馬一円で生産拡大に取り組んでいます。この他、岩津ねぎや丹波黒大豆、美方大納言小豆、高原大根、ハウレンソウ、トマト、梨を地域振興品目に設定し、生産の維持・拡大につとめています。





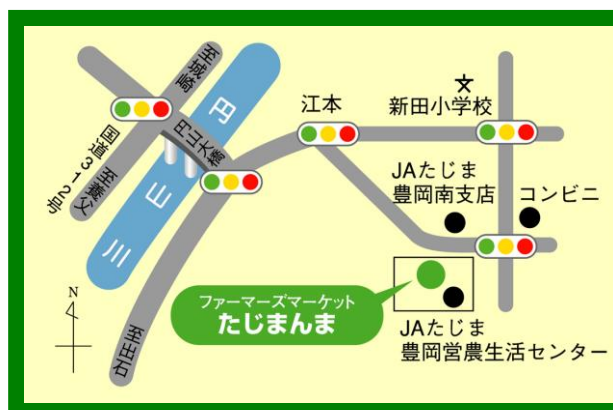
ファーマーズマーケット「たじまんま」

北但エリアの「たじまんま（豊岡）」（平成 23 年 6 月オープン）、南但エリアの「JAファーマーズ・たじまんま和田山」（平成 30 年 10 月オープン）は、毎日、但馬で育った新鮮な野菜や花、特産物を活かした加工品などが生産者の手によって持ち込まれる大きな直売所です。たじまんまでは、但馬各地の環境を活かして作られたお米や、日本を代表する牛肉「但馬牛」もお求めいただけます。それぞれ「たじまんま（豊岡）」内に店舗を持つ、専門店「地米屋」「肉の店 豊岡店」で取り扱っています。また、令和 2 年 10 月には、「オンラインショップたじまんま」をオープンしました。

店舗名の「たじまんま」には、「但馬の大地で採れた特産をまるのまんま、そのまんま取り扱う」という意味が込められています。「たじまんま」では、生産者が丹精込めて作った安全で安心な農産物を、毎日、地元の消費者の皆様にお届けするとともに、但馬の特産物や JA たじまが主催するイベント等を紹介するデジタルサイネージを導入し地域の情報発信拠点としても機能発揮しています。

なお、令和 4 年度は地域の方や観光客など多くの方にご来店いただいた結果、たじまんま（豊岡）は来店者約 30.5 万人、売上高約 8 億 2,643 万円（税抜）となりました。

《たじまんま》



営業時間 : 午前 9 時から午後 6 時まで
定休日 : 毎週火曜日（祝日の場合は営業）
駐車可能台数 : 110 台
場 所 : 兵庫県豊岡市八社宮 490-3
電話・FAX : 0796-22-0300/0796-22-0611

※年末・年始、祝祭日など、一部、定休日が変更となる場合があります。詳しくは各店舗までお問い合わせ下さい。

《JAファーマーズ・たじまんま和田山》



営業時間 : 午前 9 時から午後 9 時半まで
定休日 : 1 月 1 日
駐車可能台数 : 約 260 台
場 所 : 兵庫県朝来市和田山町枚田 922-1
電話・FAX : 079-674-1471

※年末・年始、祝祭日など、一部、定休日が変更となる場合があります。詳しくは各店舗までお問い合わせ下さい。

《オンラインショップたじまんま》

<https://tajimanma.stores.jp/>

名牛「但馬牛（たじまうし）」の産地としての責任と誇り

日本が誇る名牛「但馬牛」は、優れた伝統と血統を持っています。その起源は古く、平安時代に編纂された「続日本書紀」ですでに「耕運、輓用、食用に適す」と紹介され、古来より優秀な血統として認められています。その伝統を守り、他府県牛との交配を避けながら改良を重ねた牛が、現在の「但馬牛」となっています。

古くから但馬で農耕用として飼育されてきた「但馬牛」は、肉質のすばらしさにより「神戸牛」・「松阪牛」などの素牛として全国的に知られています。「但馬牛」の特徴として

- ① 資質が抜群によいこと。
- ② 遺伝力が非常に強いこと。
- ③ 肉質、肉の歩留まりがよいこと。
- ④ 長命連産で飼料の利用性がよいこと。

などがあげられます。

そのような中、平成 19 年に、ＪＡたじまが兵庫県内の関係機関を代表して申請した「但馬牛（たじまうし）」という商標が「地域団体商標」として登録されました。平成 27 年には、地域の伝統的な生産方法と、その風土によってもたらされた高い品質を評価し、その名称（地理的表示）を知的財産として保護するための制度「地理的表示保護制度（GI）」に「但馬牛（たじまぎゅう）」「但馬ビーフ」が登録されました。

平成 31 年 2 月には、牛の戸籍簿にあたる「牛籍簿」などを活用した固有の血統を守るために長年続けられてきた育種改良システムが高く評価され、「兵庫美方地域の但馬牛システム」が「日本農業遺産」に登録されました。

加えて、放牧や棚田のあぜ草を餌で与え、牛ふん堆肥を田畑に還元する伝統的な飼育方法が、地域資源を循環させる持続可能なシステムとして評価され、令和 5 年 7 月に「人と牛が共生する美方地域の伝統的但馬牛飼育システム」が世界農業遺産に認定されました。

但馬牛のセリ市「但馬家畜市場」

昭和 48 年に開設された「但馬家畜市場」（養

父市）は、平成 19 年に湯村家畜市場と統合され、但馬地域で唯一の家畜市場となりました。子牛市は 6・8 月を除く毎月開催されています。



但馬牛（たじまぎゅう）を身近にする「肉の店」

ＪＡたじまでは、より多くの方に但馬牛を味わっていただくため、新温泉町と豊岡市でＪＡたじま直営の但馬牛販売店「肉の店」を営業しています。精肉販売のほか、但馬牛を食卓で気軽に味わっていただくため、地元野菜と組み合わせたレシピの提案や、料理講習会などを開催しています。



【肉の店 本店】

営業時間 : 午前 10 時から午後 6 時半まで
(日曜日) 午前 9 時半から午後 6 時まで
定休日 : 毎週水曜日
場所 : 兵庫県美方郡新温泉町細田 160-1
電話・FAX : 0796-92-2538/0796-92-2548

【肉の店 豊岡店（たじまんま内）】

営業時間 : 午前 9 時から午後 6 時まで
定休日 : 毎週火曜日
場所 : 兵庫県豊岡市八社宮 490-3
電話・FAX : 0796-22-0310/0796-22-0620

※年末・年始、祝祭日など、一部、定休日が変わる場合があります。詳しくは各店舗までお問い合わせ下さい。

生活文化・高齢者福祉事業

生活文化活動

J A たじまでは、組合員のグループ活動を積極的に支援し、組合員の仲間づくりや生きがいづくりに取り組んでいます。

たじま J A 女性会では、清掃活動や家庭での未使用タオルの介護施設への寄付活動（タオル 1 本運動）を実施し、地域貢献活動に取り組んでいます。また、自治体など関係機関と連携して「町ぐるみ健診」・「骨粗しょう症健診」を実施し、参加の呼びかけと事後指導を実施している他、料理教室での食生活改善など健康管理活動にも取り組んでいます。

高齢者福祉活動

令和 3 年 4 月に八鹿介護センターと和田山介護センターを統合し、「J A たじま南但介護センター」を開設しました。豊岡・浜坂・南但の 3 つの介護センターと 2 つのデイサービスセンター、1 つのショートステイ施設で高齢者福祉事業を行っています。また、高齢者福祉事業基本計画において 5 つの活動方針を掲げ、より質の高いサービスの提供と、安心してご利用いただける事業所をめざして「訪問介護事業（ホームヘルパー）」「居宅介護支援事業（ケアマネジャー）」「通所介護事業（デイサービス）」の介護保険事業・介護予防事業に取り組んでいます。また、各介護センターでは、利用者の様々なニーズに対応できるように、J A 独自サービスとして「高齢者生活支援事業」を展開しています。また、介護保険対象外のサービスにも柔軟に対応することにより、利用者の利便性向上につとめています。



L P ガス・生活購買・旅行事業

保安の充実による安全・安心・信頼の提供（L P ガス）

地域の大切なライフラインのひとつとして、安全・安心・信頼の負託に応えられるサービスの提供につとめています。

24 時間保安体制をとって緊急対応を行うとともに、バルク供給システムなども導入し、安定的なガスの供給につとめています。

くらしをもっと豊かにする生活購買事業

食品や日用雑貨・耐久消費財など、J A の組合員が、よりよい暮らしに必要なものを、組合員が直接選んで購入する事業が J A の生活購買事業です。平成 23 年度からは、「J A くらしの宅配便」として、国産原料商品を中心とした、安全・安心な商品をより豊富に、より早くお届けしています。

旅行事業

J A たじまの旅行事業は、農村や農家の旅行需要の増加に対応して開始されました。組合員や利用者のニーズに応えるため、広報活動を通して最新の旅行・観光情報の提供につとめています。

イベント活動

地域とのふれあいと新しい絆づくりを求めて、但馬各地のイベントにも積極的に参加し、地域とのふれあいにつとめています。

広報活動

地域農業や食の大切さ、それにかかる JA の取り組みについての情報を広報誌「リレーション」、ホームページ、日本農業新聞、マスメディアに対するプレスリリースなど活用し、組合員や地域住民の理解・共感が深まるよう取り組んでいます。なお、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用して、よりタイムリーな情報も発信しています。さらに、次世代層に向けて、農業と食を通じ、JA を身近に感じてもらえる活動にも取り組んでいます。



JAたじまのホームページ、SNS では、但馬の農業の最新情報や JA たじまの活動を発信しています。ぜひご利用ください。

<https://www.ja-tajima.or.jp/>

JAたじまのホームページは、
こちらの検索からご覧いただけます。

JAたじま



JAたじま Instagram



JAたじま 公式LINE

食農活動

但馬の農業のファンを増やすため、平成 21 年度より、但馬の小学生を対象とした食農体験教室「あぐりキッズスクール」を開校しています。会場ごとに地域の特色を活かした農産物による農業体験や、収穫した農産物の調理を通して、食と農についての理解を深めます。平成 29 年 7 月には「あぐりスクール全国サミット in JA たじま」を開催し、全国の関係者と取り組みの継続と拡大を確認しました。また、出張出前授業、未就学児を対象とした収穫体験など、積極的に取り組んでいます。

この他にも、食の大切さを伝え、但馬の人たちの健康な心と体づくりを応援するため、但馬全域を対象としたスポーツ大会の支援を行っています。



地域生活を支える子会社事業

【(株)ジェイエイ葬祭】葬祭事業

ＪＡ葬祭では、利用者から信頼いただける葬儀社となるため、葬儀プランの提案力や施行技術、接客能力などスタッフの能力向上に向けた研修の充実に取り組んでいます。



メモリアルホール ゆうなぎ



メモリアルホール ゆうなぎ日高

【(株)ジェイ・アクロス】給油・自動車事業

ジェイ・アクロスでは、組合員・地域住民がよりメリットを感じていただけるようなサービスの提供に取り組んでいます。また、気持ちよくご利用いただくため、スタッフの接客力向上に向けた研修の充実にも継続的に取り組んでいます。



出石自動車サービスセンター



和田山セルフ給油所

【(株)ジェイエイサポート】有料道路料金収受・宅建・清掃事業・一般労働者派遣事業

ジェイエイサポートでは、従来からの有料道路料金収受事業や清掃事業等に加え、高齢化に伴い増加している組合員世帯の相続案件について、相談対応や手続きの代行など、必要に応じて専門家との橋渡しをしながらサポートする「相続安心サポート」の取り組みを行っています。また、空き家や土地の有効活用をお手伝いする資産管理事業に取り組んでいます。